令和6年度

小　市　こ　ど　も　園　自　己　評　価　票

記入者：佐々木　徹英

保育方針	仏教精神と待つ保育を心掛け、次の方針でこども達の育ちを支える。 ・一人ひとりに心を向ける。　～Inclusive approach～ ・共感的に関わる。　～Empathetic engagement～ ・経験を通じて学べる機会を創る。　～Learning by doing～ ・「できた！」につなげる。　～Small steps in everything～ ・地域の中で育む。　～Maximizing local resources～	保育目標	こども達一人ひとりが健全で、自立した心と自律した生活習慣を備え、次の姿であふれる園を目指す。 Communication 自分の思いを言葉で伝える ／ 思いやりの言葉や感謝の言葉を口にする ／ 友達と協力して遊びや活動を楽しむ Imagination 自分らしく表現することを楽しむ ／ 異なる表現や考えに興味を持ち耳を傾ける ／ 創造的に遊びや活動を発展させる Challenge 新しいことに興味を持つ ／ 失敗を恐れず前向きに挑戦する ／ 自分で立てた目標に向かって粘り強く取り組む

評価項目	評価内容	前期：4月～9月		後期：10月～3月	
		評価	取り組み状況	評価	取り組み状況
保育の内容について	・保育課程・保育目標・保育指導計画等は、定期的に評価見直しを行っている。	A	昨年度末に全面リニューアルした保育理念、保育方針、保育目標を園全体に浸透させるべく職員会での説明を実施し、園内の掲示物を見直した。	A	クラス担任が作成したものを主任保育士が内容を確認。適宜助言を行い、最終的に園長が承認。
	・保育目標は全職員で検討することで共通理解を図っている。	A	職員会の都度、園の方針を伝えるよう努めた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・指導計画は、子どもの実態を踏まえ発達過程に応じ作成している。	A	3歳以上児クラスを対象に月案の様式を改め、保育目標に則した計画が立案しやすくなるよう仕組みを整えた	A	同上
	・子どもへの援助・支援は,保育指針に基づき適切に行っている。	A	保育指針に基づき行った。また、作業療法士の定期的な訪問を取り入れ、いわゆる気になる子に対して適切な関わり方ができるよう、助言を受けた。	A	同上
	・環境構成は、保育や子どもの発達過程を常に意識し工夫している。	A	昨年度の取り組みを更に発展させるべく、保育室内の備品を見直した。	A	3・4歳児の保育室について、更に環境構成の自由度を高めるべく、既設の固定ロッカーを取り外し、移動できるロッカーや整理棚を新調した。
	・行事はねらいを明確にし、計画や実施に十分生かしている。	A	昨年度に引き続き、運動会の3歳未満児の種目は練習不要なものにして実施した。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や対応に配慮している。	A	指導計画の中で障害児に対する保育は個別の項目として検討・配慮している。また、作業療法士等に定期的に発達相談を行い、適切な関り方となるよう配慮した。	A	同上
	・小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて保育の内容や方法など、保護者に伝えている。	A	松ヶ丘小学校様と連携しアプローチカリキュラムの内容を見直した。	A	前期に見直した内容に基づき保育を行った。
健康・食育及び安全について	・子どもの健康管理は一人一人の健康状態に応じ対応している。	A	独自に定めた『保健衛生に関するガイドライン』に基づき健康管理に務めた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制を整備している。	A	事故防止マニュアルを元に園内研修を実施した。	A	同上
	・子どもの安全確保のために防災に対する計画を立て定期的に訓練を実施している。	A	年度当初、消防署に届け出た計画に基づき避難訓練を実施。	A	同上
	・健康や安全な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている。	A	園だよりや個別の相談を通じて情報提供を行った。	A	同上
	・楽しく食事ができるような配慮や環境の工夫をしている。	A	クラスごと、3歳以上児はグループ分けも定期的に行い、楽しい食事環境の構築に配慮した。	A	同上
	・食物アレルギーの対応や誤食防止に配慮している。	A	入所時にアレルギーに関する聞き取りを行い、調理員との連携も行い適切に対応した。	A	同上
子育て支援について	・保護者からの子育てに対する相談や意見などには適切な対応・援助を行っている。	A	にこにこ園訪問や作業療法士から受けた助言も取り入れ、就学相談が必要な子については保護者に適宜打診した。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・地域の関わりを大切にし、おひさま広場、育児相談、一時預かりなど積極的に取り組んでいる。	A	毎週木曜日に園開放、または園庭開放を実施。昨年度以上に積極的に取り組めた。	A	前期に引き続き可能な限り実施し、年間を通して25回実施できた。
職員の資質向上について	・計画的に園内研修を行っている。	A	参集型の研修会への参加やオンラインを活用した研修を積極的に行った。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・諸研修の成果を保育に生かし、子どもの育ちに反映している。	A	保育環境の見直しを継続して実施。	A	同上
	・自己評価・第三者評価を定期的に行ない保育の改善に努めている。	B	第三者評価は未実施。職員の自己評価は従来通り実施。	B	同上
運営・管理について	・保育所の課題について共通理解を深め、協力して改善に努めている。	A	職員の作業負担軽減を目的にICTシステム刷新に取り組んだ。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・職員会を適切かつ効率的に進めている。	A	必要な都度職員会を昼間（13：30～14：30）に実施。事務連絡等については園内コミュニケーションツールで対応した。	A	同上
	・守秘義務、法令の遵守をし、個人情報の取り扱い及び苦情解決など、適正かつ適切に行っている。	A	第三者委員の設置とともに苦情対応窓口を設置し適切に行った。	A	同上
	・施設内外・設備・遊具などの安全点検を計画的に行っている。	A	環境点検表に基づき、毎月安全点検を行った。	A	同上

評価	目安	前期総合評価	今後の課題と改善策	総合評価	評価理由
A: 十分に達成されている	90～100%	A	・昨年度末に取りまとめた保育理念等の見直しが具現化することを念頭におき、月案の様式を見直した。 また、指導計画については明確に主任保育士によるレビューを実施するよう変更。 着実に現場の改善が推進されるよう仕組み化した。	A	・前期の取り組みを継続。 大きな課題に対しては園長、主任が積極的に関わり、改善がなされるよう注力した。
B: ほぼ達成されている	70～90%未満				
C: 取り組んでいるが不十分	50～70%未満				
D: 取り組みが不十分	50%未満				